

大丈夫みんな仲間だ
玉岡市立 神内小学校

浪江町の皆さんへ

東日本大震災から
3年が経ちました
被災地を支援する
活動の一環として

がんばろう
にほ

7
2011 JULY

広報

なみえ

元気が
とどきますように
玉岡市立 神内小学校

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

岡山県 笠岡市立 神島外中学校

あしたがあるから
玉岡市立 神内小学校

浪江町の皆さんへ

地震・津波の被害
被災地へ支援する
活動の一環として

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。



玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

玉岡市立 神内小学校
校長が先生方にむけて
お伝えしたい思いを
書きました。

岡山県 笠岡市立 神島外中学校

生きていければ
きっといいことがあるよ？
玉岡市立 神内小学校

おうえんしています！

町長・議長メッセージ

2 町長・議長メッセージ

3 「復興に向けて」 「暗八策」

4 浪江のこころ通信

18 がんばれ！なみえ

19 情報ぴっくあっぷ

23 各種相談窓口のお知らせ

24 連絡先一覧



一人じゃないよ
玉岡市立 神内小学校

Proud!
Japan

「明けない夜はない」

ことを信じて

浪江町長 馬場 有

皆さま、お元気ですか。

あの3月11日の複合震災（大地震・大津波・原発事故）により町民全員が県内、県外に避難を余儀なくされ不自由な生活を強いられていることは痛恨の極みであります。また、津波により多くの町民の方々が亡くなられたことに、謹んで追悼の誠を捧げます。

さて、町は5月23日に二本松市街の「福島県男女共生センター」に仮役場を移転し、一部行政機能を開始し、町民の皆さまの生活再建を図るため東京電力に対し、早急な事故収束と迅速かつ最大限の補償・賠償を要求し、国に対しては国策の責任者として最大限の対策を講ずるよう要請しております。

また、町民の皆さまが再び安心して故郷に戻るように独自の環境放射能モニタリングを実施し、更にはライフラインの損壊状況の基礎調査

をし、復旧に向けて万全の準備をしております。

私の町の復興ビジョンのイメージとしては、複合災害経験の風化を防ぐために「災害対策研究都市」を目標に産学官連携による新しい産業づくりで就労の場を確保し、学術研究機関と原子力災害関係の行政研究機関の誘致を実現するべく、新しい浪江町を創建したいと考えております。

これには、国・県の支援が必要であり、「復興庁・復興局」の設置を提案し、国家プロジェクトの位置づけを強く要請したいと思っております。

町民の皆さまのご意見・提言を斟酌し、町の再生を図ってまいります。今は暗闇の底にいますが、「明けない夜はない」ことを信じ、皆さまとともに新しい町を創建し、平穏な日々が送れ、生業ができる元通りの町にするよう力を合わせてがんばりましょう。

広報なみえ 発行にあたって

浪江町議会議長

吉田 数博

東日本大震災及び原発事故以来、町民の皆さまには県内外への避難、不自由な生活をされておられること、津波で被災され、家族を失われた多くの方々に、心からお見舞い申し上げます。

原発事故の一刻も早い収束を願うばかりです。

災害対策本部（役場）は3月15日二本松市に移動し、市民やボランティアなどの心からの支援をいただき、今、二次避難所を中心に避難生活を続けております。

浪江町議会においては、4月4日郡内トッブを切り、国、県、東電本社への要請活動を行い、現在まで3回におよぶ要請を行いました。特に5月18日には、菅首相へ直接15項目にわたり要請を行いました。

今後は、町民皆さまのご意見を伺い、住宅、雇用などの生活支援、災害補償、高齢者・医療対策、予算確保等々に努めてまいります。また、必要に応じ関係機関への要請を行いたいと考えております。

町民の皆さまには、全員元気に帰町し、ふるさと再建を目指し、気力、体力を失わず頑張ってくださいることを祈念します。

—復興に向けて— 「暗中八策」

町が現在置かれている状況は、原発事故が収束しない緊急対応期・避難期であって、明確に復旧・復興ビジョンを示すことが困難な暗闇の時期ではありませんが、当面、町では喫緊の課題への対応策として8つの柱に取り組んでいくこととしました。町では、いわばこの「暗中八策」を幕末の荒波を乗り切ったように着実に実施していくとともに、さらに充実させてまいります。

今後とも、町の再生・創建にご協力くださいますようお願いいたします。

1 生活支援の充実

- 災害への補償・賠償を確保（国等への要請）していくとともに、町としての相談窓口、相談体制を強化していきます。

【現在の取り組み】

国に対して賠償範囲の拡大を要請しています。

2 経済生産活動の支援強化

- 町の基盤である農林水産業、商工業の従来の仕事を継続できるよう支援します。
- 国県の緊急雇用制度等を最大に活用して、町独自で就労の場を確保していきます。

【現在の取り組み】

国制度を活用した仮工場、仮店舗の立地調整、直接雇用の実施。

3 新たなコミュニティ創造

- 県内外に避難した町民の方々の「絆」を再生するため、広報・広聴のネットワーク強化、避難所への情報伝達強化、避難所や仮設住宅の自治組織強化を図ります。

【現在の取り組み】

携帯サイトの開始・強化、メールマガジンの実施、浪江町民専用の総合コールセンターによる電話対応を強化（接続率8割（6月中旬時点））、町民へのお知らせ開始、広報紙の再開。

4 教育・子育て支援の充実

- 町民の教育環境を確保するため、浪江町立の小中学校を二本松市に設けます。また、放射線量についても線量測定など対策を講じていきます。
- 災害により学力・体力格差が生じないよう、町として特段の支援を検討します。
- 傷ついた心のケアを徹底するため、心理カウンセラーやボランティアなどを派遣していきます。

【現在の取り組み】

町独自による浪江町が設置する避難所と小中学校のスクールバス運営、給食費等の負担軽減。

5 医療・高齢者福祉の支援

- 従来受けていた医療情報や適切な介護体制の整備のための情報ネットワークを整備するため、全国の自治体や国への支援を強く要請します。
- デイサービスを受けることができる施設を新設します。

【現在の取り組み】

他自治体の協力について、片山総務大臣に要請。診療所の設置、デイサービス施設の設置準備。

6 環境モニタリングの実施

- 浪江町全域の大気、土壌、水質の汚染度合いの調査を行い、生活、農漁業を主とする産業の再生を目指すための基礎データとする取り組みを開始します。

【現在の取り組み】

国に対する要請（町全体2km メッシュ、駅付近100m メッシュで実施）、町独自によるモニタリングに着手。

7 社会インフラ復旧のための調査実施

- 町民帰還の前に最低限のライフラインが復旧できるように、道路、上下水道、公共施設等の損壊状況、必要な対策等を調査・研究していきます。
- 農業や漁業の基幹設備の復旧のための基礎調査を実施します。

【現在の取り組み】

環境モニタリングが本格実施されないため、現在は、未着手。

8 行財政運営

- 税収確保が困難なため、町に対する特別な国交付税配分を強く要請し歳入を確保していきます。
- 徹底的にムダでムラな仕事を削減し、重要な行政サービスに特化していきます。

【現在の取り組み】

国に対して要請実施（5億円の特別交付税の交付、歳入欠陥債（国が100%補てん）の創設済）。

浪江の こころ通信

・第1号・



官民協働による “浪江のこころプロジェクト”が 始まります！

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏（7県）の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。



「浪江のこころ通信／第1号」への感想をお寄せください。

【連絡先】福島県二本松市郭内一丁目196-1男女共生センター内「浪江のこころ通信」宛 FAX.0243-22-4261



吉田 康正さん

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 松原

猪苗代町の中心部から車で30分ほど離れたところにある沼尻温泉には80人ほどの浪江町民が避難している。そのうちのひとりが、元カラオケ店勤務の吉田康正さんだ。



▲「みんなで戻って、浪江町を元気づけよう！ ななし（ロッククライミングの仲間）のみんな、がんばれ！」

■避難するまで

吉田さんは趣味のロッククライミングの関係で、地震が起こったときには福島市内のジムにいた。あわてて帰った自宅は地震によって大きな被害を受けていたものの、家を片づける余裕もなく車2台で避難することになったという。

吉田さんは、まず横浜の親戚の家に2週間いたが、近くのアパートを借りようとする「福島の者には貸せない」と言われ、また横浜では浪江町の情報がまったく入らないこともあり、3月末には同じ行政区の住民が避難する猪苗代町の方へ移ることにした。

はじめは体育館での一次避難だったが、4月15日からは沼尻温泉の田村屋旅館で二次避難をしている。

■避難所での生活

避難所では朝昼晩とご飯が出るため、どうしても何もせずには部屋に閉じこもってしまいがちになる。そこで吉田さんが大切にするのは、とにかく外に出て気分転換をすることだ。

スキー場でワラビなど山菜を採ったり、山で趣味のロッククライミングをしたり、車で買い物に出かけたりと活発に動かれている吉田さんは、「じつと部屋に閉じこもっていてもしょうがないし、考えてもなるようにしかならないから、割り切ってここの生活を楽しむ気である。」という。

吉田さんは、旅館の自治会の副会長もされており、自治会で声かけやカラオケ大会をするなどして、ひとりになる人が出ないように心がけをしている。

■地域のつながり

沼尻温泉では同じ行政区の人が集まって避難しているので、知り合いがいらないわけではなく、かえって浪江町にいたときよりも会う機会が増えたほどだという。そこで吉田さんが心配するのは、せっかく一緒になった町が仮設住宅に入ることでばらばらになってしまうことだ。吉田さんはスーパールの近さから福島市内の入居を希望しているが、人によって希望すると



▲避難している田村屋旅館

ころは違ってくる。また、一度仕事を始めるとその場所での新しい生活が始まるので、浪江町には戻りにくくなる。そのため、いつそ避難所の生活の方がいいのかもしれないとも言われていた。

吉田さんは、浪江町に帰ることを半ばあきらめかけている。浪江は生まれ育った町であり、先祖代々の墓もあるので、死ぬまでには浪江町に帰りたいという思いも強い。

だから、もし帰れたときには、近所の人とあいさつを交わし、浪江で仕事をするという地震前の生活を取り戻したいとも思っている。

ただ、すぐに帰れるわけではないので、今は与えられた環境を楽しむことぐらいしかできないとあきらめがちに話していた。

浪江町民として、100まで生きたい！

鈴木 静子さん



取材：元気玉プロジェクト実行委員会 鈴木



■人生のつらさを乗り越える
「生きていてよかった」

3月11日は、夫の四十九日で納骨をすませ、その後に震災が来ました。避難当初は体制が整っておらず看護師という職業柄、何かあったら看に行くこともしていました。

3回目の避難先に移り、医療面も安心できる状況になってきて逆にやる事がなくなり、生きがいを感じられなくなっていました。

若いころに結核を患い生きる目的を感じられなくなり、自殺を図

ったこともありました。その闘病経験と、後に看護師になりたくさんの方々とお会いでき、いろいろな経験をさせていただいたことを「生きていてよかった」という題で、老人会や看護学生などに向けて話をしてきました。

震災があり、避難生活の中で、夢も希望もなくなっていたけれど、ふり返ってみるとつらいことは、そのままずっと続くわけではない、必ず乗り越える時期がある。死ぬのはいつでもできるけれど、生きていなかったら…。

みんなと一緒に、浪江町民として、100まで生き、浪江で楽しく一生を全うしたいと考えています。

■避難生活で感じる、
寄り添う看護の大切さ

以前、県立病院の総看護師長をしていた折には、神戸の震災時に看護師派遣をしましたが、実際に被災者側になり、被災地での看護の難しさを改めて感じています。

他県などから派遣されて避難所を訪問してくださる看護師さん들도被災者に接して良いか戸惑いながらの様子が見られ、時にはうるさがられている場面もありました。

浪江では、訪問看護を行っていたので、リハビリの支援指導の経験を活かして気付いたときに声をかけ、アドバイスしたりもしています。

寝たきりにならず、健康第一で、みんな浪江に帰りたいと願っています。

■地場産業の夢 豊かな浪江

自然や虫が子どものころから好きで、趣味が高じて天蚕（てんさん）の飼育をしていました。天蚕を使った化粧品は福島県の特許にもなり、「浪江で天蚕を地場産業にしたら」と提案したこともあり、毎年、天蚕の卵を霊山の天蚕の会に届けていましたが、今年はできませんでした。

浪江のきれいな川ときれいな海、資源豊かな山がそのままであってほしいと思います。

最後になりましたが、津波でご家族や家のすべてを失われた方々には、心より哀悼の意を表し、お見舞いを申し上げます。叶うならば以前の浪江のようにきれいな川と海、そして資源豊かな山が戻ってくることを願っています。



八島 貞之さん

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 鈴木



■子どもたちの生活

現在は、義務教育中の子どもがいる世帯専用の二次避難所で生活しています。それまでは、私の両親も一緒に生活していたのですが、子どもの祖父母は入居対象ではないとのことから、両親とは別のところで暮らしています。本当は孫の成長を身近に感じてもらいたいがら暮らしてほしいのですが、できないのが忍びないです。

二次避難生活は、一世帯一部屋で生活しているので、子どもが午後9時に寝た後など部屋で仕事ができないのが不便です。

■浪江町民をつなげる 浪江の焼きそば

商工会の青年部長時代から、なみえ焼きそばで町おこしをする取り組みを行っていました。もともとこの焼きそばは50数年前に、その当時、地域が貧しくて漁業も農業も重労働で大変だった時代、安く食べ応えがあるものでみんなを元気にしたいという気持ちで、ある食堂が考案したそうです。

今、町が大変な状況ですが、当時の思いと同じくなみえ焼きそばで復興を手助けできたらと思っています。本来私たち青年部は、先頭に立って復興のお手伝いをしたい

のですが、町が立ち入り禁止のため、何もできないのが悔しいです。唯一できることは、浪江町の町おこしを続けていくことだと思っています。それをやっていけば、心の復興につながっていくのではないかと。だからやろうと決めました。

4月29日～5月8日、安達ヶ原ふるさと村でなみえ焼きそばを5000食ぐらい出しました。浪江の人たちが集まって長い時間並んで待ってくれて、暖かい言葉もかけていただきました。

「みんな頑張ってるから、懐かしい焼きそばを食べにきたよ。」
「頑張れよう！」などみんなに元気を届けるつもりが、逆に元気をいただいたと思います。

今後、まだまだ食べられない人も多いので、焼きそばを出す機会ができたらと考えています。売上は義援金などにしたいし、町民が集まれる場を作っていきたいです。

■町に帰ったら

自分の仕事である建築業で町の復興を手助けしたい。そのためにも、浪江の中小企業の今後の補償をいち早くしてほしい。浪江には中小企業が多いので、そのことが無いと、町に戻ったときに事業が

再開できなくなることが心配です。

■青年部の仲間たちと

今会いたいのは、ともに町おこしのために汗を流した商工会の青年部の仲間です。町おこしをしなから友情や信頼関係を深めていきました。それはお金には変えられないものです。

町民の皆さんや仲間と1人も欠けることなく、みんな町に戻って力を合わせて復興に取り組みたいと思います。



芹川 輝男さん

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 北松



福島県



▲芹川輝男さん。7月から「杉乃家」を再開させる。

避難生活が始まってから3カ月経つけど、最初のうちは家族もばらばらで、車中泊をしたり、移動も多くて大変だった。

今は二次避難所で少し生活が落ち着いたらけど、個室で分かれてる分、部屋にこもりつきりにならないように気をつけてる。特に今、力を入れてるのが体力づくり。朝9時半から4時間かけて、避難所の裏にある磐梯山に登ってるよ。頂上目指してひとりで登るんだけど、てっぺんに着いたときは気持ちいい。ほかにも、避難所の周りに史跡がたくさんあるからちよくちよく見に行ったり、お風呂にゆつくり漬かったりしてる。こうやって毎日外に出て運動したり、周りの人としやべると気分転換になっていいんだ。

浪江町では食べ物屋をやっていたけど、地震の後はずっと休業。

それが縁あって、二本松の駅近くに7月1日からお店を開けることになった。お店の名前は前と同じ「杉乃家」。メニューは、やっぱりなみえ焼そばと、得意の特大エビの天丼や、若い人向けのラーメンだな。自分は幸運にも仕事を始める機会をもらえたけど、今はまだ仕事が見つからない人もたくさんいる。自分はもう年だけど、自分がお店を開いているのを見て、若い人たちが「負けらんねえ！」って元気を出してくれるとうれしい。

浪江町は本当にいいところ。何がいつて、季節の行事がたくさんあったり、漁港があるから、魚がいつも新鮮でうまい。町おこしにも力をいれていて、大堀相馬焼の器でなみえ焼そばを売り出して、これが最近ちょうど波に乗ってきたところ。でもなにより自慢できるのは、人の良さや、人情の厚さ。これはどこにも負けないと思う。

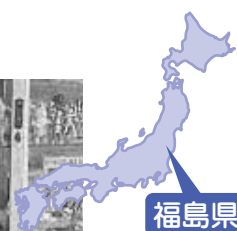
地震で元の生活が一変したことのショックは本当に大きいよ。浪江はみんながばらばらになっているし、この状況ですぐに顔をあげて、前を向いて、なんて難しい。今は一日一日、本当に大変な時をみんなが精一杯過ごしてる。でも、いつかはきっと、みんなで浪江に戻る日がくるって信じてるよ。「がんばっぺ、浪江！」今はこの言葉で力を合わせていきたい。

今はいろいろ大変だけど、悪い部分だけでなくいい部分も見ないと。よく考えると今は毎日温泉に入れるっていう夢みたいな環境にいる。旅館では知らない人ばかりだけど、毎朝散歩していると自然と知り合いもできてきた。この間は花見、今度は温泉まつりがあったりして、旅館もいろいろしてくれる。

浪江にいたころも津島で毎年お祭りをやっていた。自分で焼き肉を出店したり、歌手を呼んできたりして、町に頼らずに自分たちでやっていたのが自慢だった。

床屋をやっていたから、帰ったらまずはお客さんの顔をみたい。でも津島は放射線量が高くて子どものいるところは帰りづらいから、昔の津島には戻れないかもしれない。でも、20キロ圏外なのでたまに家に帰ると、今までは何とも思っていなかった風景がどこか安心して見えてくる。

とりあえずの目標は、仮設住宅に入って床屋をやること。店名は「ヘアーサロンさんぺい」だったけど「ヘアーサロン浪江」とかにして、みんなが集まって浪江の話ができる場所にしていきたい。二本松市の仮設住宅に入居予定だから、常連の人に開店したら知らせたい。



福島県

三瓶 友一さん

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 松原



森野 珠美さん

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 大木



▲森野さんと娘の真奈ちゃん(3歳)

町の臨時職員で少しだけですが、震災の手伝いをしてから次の朝、帰宅するとすぐ避難命令。すぐ帰ってくると思い、家の中を片付けられないまま、慌てて避難しましたが、もう3カ月近く家に帰っていません。川俣道の駅で車中に2泊して、それから親戚や避難所の体育館に避難。4月17日から今のホテルで避難生活をしています。

子どもたちも学校に入り、放射能も気にせず、学校活動に励んでいます。今度、仮設に移動すると一学期で3回も転校するので、子どもたちがかわいそうに思います。今は、原発事故で浪江にいつ帰れるのか、先のことが分からないため、いつまで二重生活をしなければならぬのか心配です。浪江の自宅にあった物をまた買うとき「これ、あるのになあ」と思いながら買うのがときどきあります。

地震直後は津波を警戒してお墓のある高台へ逃れ、その夜は近くの北棚塩集会所で夜を明かしました。翌日の朝に原発事故の情報を聞き津島中に退避。その後、避難所を転々として4月7日から磐梯町七ツ森のペンションに世話になっています。

一番つらいのは、部落の中で津波により11名が死亡し、まだ2名の行方不明者がいることです。原発事故により捜索が遅れているため、一日も早く安否が判明してほしい。

亡くなられた方の中には、湛水防除管理者の鈴木謙太郎さんのように、部落を救うためみんなが避難する中を海岸の排水機場へ向い、津波にのまれ亡くなられた方もいらっしゃいます。本当にお悔みの言葉も見つかりませんでした。

6月4日に一時立入りで部落に行きましたが、ほとんどの家屋が流され、囲いの木さえもなく、ただただ荒涼と遮るものもなく、広々とした故郷の姿に呆然としてしまいました。

それでも部落に帰れば復興のことも

考えられるかもしれませんが、いつ戻るのかも分からない状況では、見通しも立てられません。そこには原発事故にも見舞われた浪江町の他地区にない苦しみがあります。安全神話の崩れた原発事故の一日も早い収束を待っているのみです。

南棚塩では、貴布祢神社や地蔵尊の行事、盆踊り大会、パークゴルフ大会などでみんなが集まったものでした。これらは避難先での実施は困難です。

いつになるか分かりませんが、故郷で再び開催し、みんなで楽しく暮らせる日を夢見て、頑張っていきたいと思います。



中倉 勲さん

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 中山

また会う日を楽しみに、それぞれの
場所へ前に進んでいくしかない



小野田浩宗さん

(ヤングプラザスポーツ少年団団長)

取材：元気玉プロジェクト実行委員会 大林



「やっぱり、全国大会に出よう。」4月30日、綱引きで全国制覇を目指すヤングプラザスポーツ少年団(以下、「スポ少」)の子ども・父兄・指導者で話し合いを持ち、8月7日に東京で開催される全日本ジュニア綱引選手権大会への出場を決めました。最初は、12人のメンバーが県内(福島、飯坂、二本松、いわき、裏磐梯、猪苗代)と県外(埼玉、千葉)にばらばらに避難しているので、「出場を断念せざるを得ないかもしれない」という思いもありました。しかし、話し合いに参加した誰もが、スポ少が全国の舞台に立つことを望んでいることがわかり、練習量の不足や金銭面の負担などの制約を承知の上で、みんなで出場を決意したのです。

ありがたかったのは、各地からの支援でした。大会参加をバックアップしてくださっている日本綱引連盟、県綱引連盟、そして県綱引連盟猪苗代支部の方々。関東に避難している子どもたちを練習に参加させてくれ

ている佐川急便(スポ少OB勤務)の綱引きチーム。ここには書ききれませんが、その他たくさんの方々に支えられ、今では週に一度の地域別練習に加え、月に一度の全体練習ができています。

練習時間は以前の3分の1になってしまいましたが、子どもたちは、限られた時間を大切に、心をひとつにして頑張っています。チームには、練習不足を補う絆が生まれつつあるのです。

綱引きに限らず、避難生活の制約の中で子どもにも我慢を強いる状況が数多くあります。しかし、私たち大人の役割は、少しでもそうした状況を改善し、子どもたちの一度きりの“今”が輝くような環境をつくることだと思います。たしかに、先の見えない生活の中、不安を挙げればキリがありません。しかし、そんな時は「心～まずは一勝～」というメッセージが刻まれたスポ少の団旗を思い出して、一步一步前に進んでいくんだと自分に言い聞かせています。

8月7日、皆さんへの感謝を胸に、「まずは一勝」の精神で、全国大会に臨みたいと思います。離れていても、皆さん一人ひとりのご声援がスポ少の力になりますので、応援よろしくお願いいたします。

僕は、震災後3日目に親戚のいる群馬県伊勢崎市に避難してきました。それからは、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒にずっとこのまちに住んでいます。今、通っている小学校に福島県から避難してきた人は僕ひとり。だけど、新しい友だちがたくさんできました。「マヒロ！」と友だちが僕の家までいつも誘いにきてくれます。休みの日は朝から夕方までずっと楽しく遊んでいます。6月5日から横浜や鎌倉への修学旅行も始まります。



▲麻弘くんのおばあさんが取材者のために作ってくれた手芸品。

会いました。懐かしかったし、できたらもっとたくさん浪江の友だちと会いたいです。みんなはどこにいるのかな。担任の井戸川先生にも会いたいな。

こっちの小学校の校歌を歌うたびに、なんだか浪江小の校歌を忘れてしまう気がして、一度お母さんと大きな声で浪江小の校歌を自分の家で歌ったりもしました。以前のように浪江の中央公園で野球をしたり、剣道や習字を習ったり、サンプラザに買い物に行ったり、浪江町に帰って普通の生活がしたいです。それまで家族と一緒に助け合っていたんです。来月からは、僕が得意な習字の教室に通って元気に頑張っていきます。



長竹 麻弘くん(小6)

取材：高崎経済大学 櫻井常矢研究室
櫻井・山下

浪江小の校歌を忘れたくない



群馬県

坂本秀一郎さん・由里江さん

取材：高崎経済大学 櫻井常矢研究室 櫻井・山下

「浪江のこころ通信」で故郷へのこだわりを育みたい

私たちは、震災後、福島県内を転々としながら親戚を頼って群馬県高崎市にきました。現在は、公営住宅に家族5人で暮らしています。

私は仕事も得ましたし、小学2年生の子どものこちらの小学校に馴染んでいるので、しばらく高崎市での暮らしが続くと思います。やっぱり子どものことが一番大事ですね。

周囲には、福島・浪江から来ている人はいないようなので、孤独ではありますが、こちらでは地域の区長さん、民生委員さんはじめ周囲の方々がいろいろと声をかけてくださります。時折、野菜などを持ってきてくれたり、バーベキューのお誘いなどもいただきます。とても親切でありがたく感じています。

ですが、やっぱりふるさとの浪江町を思い出します。浪江の海、請戸地区の安波祭、

新鮮な魚料理、地酒の寿などが懐かしいです。

浪江の自宅は津波で流されましたが、いつか必ず浪江に帰りたいと思います。たとえば、もとの土地に住めなくても、どこかに浪江の皆さんがまとまって暮らすこともあっていいのではないのでしょうか。知っている者同士が一緒にいれば、元気に頑張れると思います。

特に、体調に不安を抱えるおじいちゃんを見ていると、何か楽しみを見つけて、心から打ち解けられる居場所があったらいいなと思います。それにはやっぱり浪江の皆さんとのふれあいが必要です。

商工会青年部の八島さんたちの「なみえ焼きそば復活」の取り組みをテレビで見ました。なつかしく、また私たちに勇気を与えてくれますね。請戸のある年の冬、八島さんたちがサンタクロースを装い子

どもたちにプレゼントを渡してくれたことを思い出します。

少しずついいので、浪江町や周辺の町の映像を定期的に流したり、頑張っている人たちの様子を発信して欲しいです。また、避難している浪江の皆さんは、各地でどんな生活をしているのか。子どもをもつ親御さんたちはどんな悩みを持っているのかなど、皆さんのことが知りたいですね。

時間の経過とともに、ふるさとへのこだわりが薄れていくのではないかと心配です。今回の「浪江のこころ通信」は大切な取り組みだと思っています。取材をしていただき浪江のことを発信することで私たちのふるさとへの思いや安心、そしてみんなのつながりが保てるのではないのでしょうか。浪江という町を忘れないために。



▶坂本家の皆さん



本田 由美さん

取材：高崎経済大学 櫻井常矢研究室
櫻井・斉藤・内山

避難先の地域の皆さんとの 交流から元気をいただいています



▲本田さん(左)と看護師の大和田さん(右)

私は、群馬県東吾妻町で南相馬市の皆さんと一緒に避難生活を続けています。以前は120名ほどの避難者がいましたが、現在は20名ほどになり少し寂しくなりました。

避難先の皆さんの食事は、調理師免許を持つ私を含む3人を中心として自炊していましたが、それも私一人になりました。

娘と弟とは一緒に暮らしていますが、家族はバラバラのままです。この避難所に常駐する浪江町出身で看護師の大和田純子さんはじめ、皆さんと助け合って頑張っています。大和田さんは、環境の変化に

ともなう避難者の皆さんの体調不良を心配されています。

先日、地元の方々の企画で南相馬の郷土料理を作る機会をいただきました。その中でも「晴れの日食堂」というイベントでは、食を通して地元の方と避難者との交流ができました。それがきっかけで、地元の皆さんと親しくさせてもらっています。生活用品を届けてくれたり、調理の手伝いをしていただいたり：感謝しています。ふるさとである浪江町のことを忘れたことはありません。いつか浪江に帰って、この苦しい時を乗り越えたことを皆でふり返って話せることができると願っています。



▲大和田さんは、避難所で避難者の健康体操を行っています。



横山 俊勝さん

取材：くびき野NPOサポートセンター 植木

立野字坂下から震災後、津島、那須等を経て、義兄がいる柏崎市に避難。浪江町では10人の大家族。今は妹が栃木に嫁ぎ、両親は福島に戻り、祖父母と夫婦、3人の子どもたちとアパートで暮らす。パソコンが唯一の情報手段。浪江町や東京電力の情報確認は大事な日課。

妻の兄夫婦が柏崎市にいたので、親戚20人ぐらいで、車に分乗し自主避難してきました。

寒い時期だったのでまず購入したのが布団、その後、家具などは全て柏崎市の皆さんからの支援でそろえることができました。

そのとき、とても助かったのが「共に育ち合い(愛)サロン・むげん」というラーメン&雑貨屋さんの存在。個人で支援物資の取り次ぎをしてくれて、必要なものを2～3日で調達してくれました。福島からの避難だとわかったと、「役立てて」と名前も明かさず1万円を差し出してくれた女性もいました。そのとき、みんなで食べたラーメンの味は忘れられません。おいしかった。

人情溢れる柏崎市の人たちに支えられて、日常生活は送れています。

親戚も徐々に福島の前設住宅などに戻りつつありますが、小学生の息子たちは新しい学校に慣れてきたので、自分たちはしばらくここで暮らそうと考えています。3歳の詩乃は、「しーちゃんのおもちゃおきっぱ

なしだよ」「ここは、お家じゃない、地震で壊れたのがお家でしょ」とまだ言います。

何より子どもたちのことを最優先に、これからの暮らしを考えていきたいと思っています。



▲アパートの前で。ずっと一緒だったサクラは一足先に福島へ戻りました。
翔琉くん(小6)、拓海くん(小5)、詩乃ちゃん(3才)、愛犬サクラ



伊集院律子さん

取材：くびき野NPOサポートセンター 渡辺

3か月の間に避難場所を9か所も移動。現在は新潟県上越市内のアパートで両親、嫁、孫の6人暮らし。長男は仕事のため相馬市内に。



乳幼児と80代の両親が一緒なので自主避難を選びました。高齢者には遠距離の移動は体力的に辛い、ある程度したら我が家に戻れると信じていたので、避難地域ぎりぎりのところで避難を繰り返してきました。その結果、この3か月で避難場所を9か所も変え、ようやく2か月前に親戚が住む上越市に落ち着きました。

以前に住んでいたところは自然がいっぱい、音といえば鳥の鳴き声でしたが、ここは車の音が多く、最初はびくついていました。慣れないアパート暮らしのストレスに頭を悩ませていましたが、リサイクルショップに出かけたり、孫も公園で遊ぶようになり、少しずつこの地域にも慣れてきました。毎朝近くを通る幼稚園バスを見て「来年から幼稚園に通うよ」と笑っています。

小さい子どもがいるので健診や予防接種などの情報が得にくかったり、アパートなので地域との接点がないことが、少しさみしく感じています。

浪江町ではピアノを教えていて混声合唱団にも関わっていました。先日、団長が取りまとめた団員名簿が送られてきて、仲間からの便りにとても励まされました。

先行きが見えない不安の中、2人の孫の笑顔に支えられながらの生活。上越でもぜひ合唱をやりたいし、それを通じていろいろな人と交流できたらいいなと思っています。



▲アパートの前で孫の花奈ちゃん(3才)と真大くん(10か月)の笑顔に支えられて



母が大切に
つておいた20
03年1月の「広
報なみえ」には、
息子が保育園の
ときの集合写真
が表紙になつて

地震が起きたときは勤め先にいて自宅に戻っていないため、父母から話を聞いても家が流されたという実感がわかず、踏ん切りをつけたために6月4日に一時帰宅してきました。玄関の敷居と基礎だけ、あたり一面何も無く、学校がやたらと近く見えしました。自分の家に戻ってきたのに家を見る「目」が、まるで夢の中にいるような、「自分の目」で見ている感覚がなく、いまだに実感がわかないような感じでした。何でもこんなことをしているのか、戻りたいのに何で逆に逃げなければならぬのか、という思いがかけめぐりました。



いて、焼き増しして同級生に送ったとしても喜ばれました。携帯電話で撮った2月20日の安波祭のときの写真も。今回の震災で写真が全部流されてしまったので、本当に喜んでくれて…。子どもたちには友だちができ、こちらの環境に順応し始めているので、子どもたちのためにはこのままの方が良いでしょうけど、最初は2、3日で戻れるものと思っていたので、ここに落ち着きたくない、やはり浪江に帰りたいという思いがあります。

柴 恵美さん

取材：くびき野NPOサポートセンター 秋山

請戸から避難。サンシャインで一泊、翌朝のサイレンで逃げろと言われ津島へ。

その後、夫と兄の仕事の関係で知っていた新潟県柏崎市へ。最初は声をかけてくれた海の家に身を寄せる。公営住宅に応募するも倍率が高く外れてしまい、自力で探したアパートへ。



▲先輩から譲り受けた制服を着て柏崎市の中学校へ
亜華音さん(小5) (左)、駿斗くん(中1) (右)



吉野 好志さん

取材：(特活)きらりよしじま
ネットワーク 鈴木・笹木

笑顔で会える日を信じて

浪江町から、本人、妻、子ども2人、母親の5人で米沢市八幡原雇用促進住宅に避難している吉野さん一家。現在、吉野さんは、それまで勤めていた会社から解雇もされない「待機」状態のためアルバイトもできずにいるが、今、就職しても金額的に休職手当ての方が金額が良いという状況に戸惑いもあるという。



震災から2週間後の4月5日に、親友に誘われ米沢市営体育館に避難し、3週間ほど過ごした後、現在の八幡原雇用促進住宅に移りました。震災では津波によって会社や家屋、車を流されてしまいましたが、当日のうちに、バラバラになっていた家族と会えることができました。

現在は、17年間勤めた会社から「待機」と言われており、アルバイトもできない状況下にあるため今後の方向性が見えず、働けないことが一番つらいです。

今、こちらで就職してしまった方が良いのか、それとも「待った」方が良いのか。浪江町に戻れるのか、戻れないのか。戻れるとしても放射能の数値が高いうちは子どもの成育や生活を考えて戻ることほしきと思っています。

行政等に対しての要望や意見として、テレビで報道されている国の状況を見ると、政党がどうのこうのと

言っている場合じゃない、このような状況のときには協力しないといけないんだと強く言いたいですし、福島県の行政に対しても被災者に負担をかけないようにできないのか、と言いたいです。

私は全ての「モノ」を失いましたが、「家族」が心の支えです。「何とかなさ」といった楽観視の部分も必要なのでは、と思います。また、すべての「モノ」を失くしてしまったからこそ「逆の強さ」があるとも思います。これもすべて、今までの人生の中で乗り越えてきた自分の気持ちや経験に伴う自信なのかもしれません。

ーブレスレットには、

「がんばれ！マリンパークなみえ ぼくたちはいつも共にいる」

の文字が入っている。ー



佐藤 眞敏さん

取材：(特活)山形の公益活動を
応援するかい・アミル 齋藤

なみえの美しい海岸線を 是非また散歩したい！

私たちは3月13日に山形市へ避難してきました。元々娘夫婦が山形市に居住していたので、津波で家は流され、そして浪江町が原発10km圏内ということで、年に10回程は訪れていた山形市に息子夫婦、それに孫を連れて避難しました。現在はアパートに入居して近隣で仕事をしながら比較的平穏な生活を過ごしています。山形県の対応は比較的素早く、現在のアパートの借り上げ手続きもスムーズに行なっていただきました。ご近所とは孫と同じぐらいのお子さん、そしてそのお母さんたち世代との交流もあります。それでも、やはり故郷の浪江町、そして私たちの住んでいた請戸地区へは、一刻も早く帰りたいと思っています。山形市内で山を見ると住んでいた景色を思い出します。特に毎日散歩していた海岸線の美しさや、小さいながら楽しんでいた家庭菜園の野菜や花々は今も心に焼き付いて離れません。そして夏涼しく冬暖かい温暖な気候と、おいしい「ほっきめばる」そして



金澤 良行さん

取材：(特活)きらりよしじま
ネットワーク 寒河江・井上

被害者となり、感じること

震災翌日に避難し、米沢市小野川温泉にて避難所生活を送っている金澤さん。米沢から仙台、南相馬を往復する毎日だが、7月には南相馬市のアパートに引っ越し予定だという。原子力発電所事故の正しい情報、浪江町の今後についての情報を求めている。



3月11日の地震当日、近くの避難所へ行きましたが、翌朝に避難指示があり、そのまま山形県米沢市へ避難して来ました。

避難当初は避難者受入れ準備もなく食料にも困りましたが、徐々に改善され、支援物資をいただきながら生活を送りました。

その後、米沢市役所の方から小野川温泉「河鹿荘（かじかそう）」を紹介していただきお世話になっています。現在は仙台に事務所を借りましたのでここから仙台まで通い、その帰りに妻がいる南相馬へ立ち寄り、河鹿荘へ戻るという生活をしています。

今は、浪江町へは戻れるのかどうか、はっきりした情報が欲しいです。地元へ帰りたと思う方はお年寄りを中心に多くいると思いますが、新しく浪江町へ住みたいと思う人はいないと思っています。私も浪江町に戻り、再建したいという気持ちはありますが、戻れたとしてもお客さまがいない、雇用もないことを考えると不安の方が大きいです。

子どもの学費や生活費など経済的にも不安定な日々

で、避難生活にはいまだに慣れません。

原発事故に関しては、情報が錯綜しており、どの情報を信じたら良いのか分からなくなっています。

浪江町は「原発の町」のイメージがありますが実はそうではなく、実際は浪江町周辺の方々が多く原発に関わっていました。今回の原発事故により、私の人生が大きく変わってしまいました。原発事故による被害が予想以上に甚大であることをもっと多くの国民の方に知っていただきたいと思います。聞くとところによると、東京あたりでは原発事故の事をそれほど深刻に考えていないようだ、といった話もあります。浪江町長もメディアに出て現状を訴えています、まだまだ足りないと感じています。

現在、引っ越し先の申請を行っており、順調にいけば7月には南相馬市にあるアパートに引っ越し予定です。今までお世話になった避難所の方々や米沢市役所の方、河鹿荘の方々など、山形の方はみんな温かくて大変感謝しています。今後、みなさんへお礼をしたいと考えています。



“きれいな”などの海産物は忘れることができません。また、毎年新年会を欠かきなかった組の12世帯の方々とは、是非再会を果たして、恒例だった古峰神社へのお参りへも行ける日を望んでいます。毎年2月に行われていた「安波祭」が、心に強く思い出として残っている、何としても再開して欲しいと強く願っております。残念ながら、津波でほとんどすべてを失ってしまいました。一家の写真と卒業証書が後日見つかり、唯一生き残った物として、「お守り」替わりにと大切にしていこうとみんなで話しています。現在、浪江町の情報は友人との携帯電話を使った情報交換などを通じて得ており、この山形にも請戸から避難されている方もいらつしゃいます。私たち夫婦は5月にイタリアへの海外旅行を予約していたのですが、残念ながらキャンセルせざるを得ない状況になりました。それでも、原発が収束して心にゆとりが生まれ、是非またゆっくり旅行したいと思っています。地区のみなさんと早く再会できることを強く願っております。



三原 優蔵さん

取材：(特活)きらりよしじま
ネットワーク 高梨・井上

吾唯足知 (われたただたるをしる)

地震発生とともに車で避難し、そのまま避難所生活となった三原さんご一家。避難してきてからは毎朝、上杉神社にお参りしている。願いが一刻も早く通じて欲しい。祈ることしかできない毎日だが、浪江町へ戻ることは決して諦めないという。



現在は米沢市のアパートで、本人、妻、母親の3人で生活しています。浪江町では、おもちゃ屋9割、自転車屋1割という商売をしていました。現在は、こちらで私と妻がアルバイトをし生計を立てていますが、大学生の息子がおり、経済面でとても心配しています。浪江町のお店のことを思うと、来てくださったお客さまにお会いしたいというのが一番に思うところです。

避難先として選んだ米沢市の避難所の方々や地域の皆さまは本当に良くてくださって、改めて人の温かさを感じています。

浪江町は山がきれいで海が近く、サーフィンのできるリゾート地です。鉄腕ダッシュのダッシュ村があるところとしても有名です。また、日本一、海に近い酒造会社があるところで、「寿」「天王山」「樂實」といった縁起の良い地酒があります。このような浪江町に一刻も早く戻りたい気持ちがありますが、現実として仕事もない、人もいない、下水も使えなくなっているという状況を見ると戻るのはなかなか難しいと思います。

浪江町での友人や会社関係者、親戚などとは連絡が

取れています。ただ、近所の方々などは各自バラバラに避難したので友人が近くにいないくて寂しい思いをしています。特に母親はそう感じているようです。

東京在住の娘(三原由紀子)が『壇歌』6月号に『人のさまざま』という作品を書き掲載されています。その中で「今声を上げねばならん ふるさとを失う 我の生きがいとして」という一文に故郷を失うかもしれない不安な思い、そして、これ以上私たちと同じような思いをする人を増やしてはいけない、という思いが込められています。これは浪江町のみなさんの思いを表現していると思います。

現状はとても厳しいですが、友人、知人から支援物資を多くいただきました。生活用品や食料などどれも本当にありがたいものでした。妻は毎朝早く起き、上杉神社にお参りをしています。そこで知り合った方やご近所の方々に温かく接していただき、この震災で本当に人の縁が大切なのだと強く感じています。浪江町のみなさん、諦めないでいきましょう。



鈴木 卓さん

取材：(特活)山形の公益活動を
応援するかい・アミル 齋藤

「安波祭」「出初式」 請戸の伝統行事を 是非守りましょう！

震災後、私たちは「いこいの村」へ避難しましたが、その後の原発事故を受け、南相馬市原町区の実家、飯館、そして友人のネットワークを通じて新潟や山形の情報を得て最終的には山形県に避難してきました。当初は山形市の総合スポーツセンターに避難、その後、天童市の旅館に二次避難しました。高齢者がいるので、やはり食事と風呂の心配が大きく、この天童温泉を避難先を選びました。私自身は、やはり就労が一番心配なので、ここ山形だけではなく、東京方面でも仕事を探しています。雇用形態を選ばなければ、いくつか仕事はみつかるのですが、きちんとした仕事となると難しいのが現状です。まずは自分たちの生活基盤を作ることが最優先だと考えています。

震災後心残りなのは、12日に原発事故が明



中西總一郎さん

取材：(特活)きらりよしじま
ネットワーク 小形・原田

前に進む決心

震災数日前に生まれた孫を連れて山形県南陽市に避難されている中西さんご一家。被災していながらも、一刻も早く仕事を通して、復興の手伝いしたいと願う。「阪神大震災は他人事」だったという中西さん。生まれたばかりの孫に浪江町の美しい風景を早く見せたいという。



震災翌日の3月12日に福島原発事故による避難指示により、山形市内の知人アパートに家族5人で避難してきました。その後、南陽市にあるアメリカンビレッジ（トレーラーハウス）を知り移動、長期間の避難に備えました。孫は、震災数日前に生まれたばかりで、病院から原発からすぐ離れるようにとの指導があり退院してすぐ山形に避難してきました。滞在中、南陽市で赤湯温泉 桜湯さんで大浴場を避難者に開放していることを聞き立ち寄った際、桜湯の女将さんが「赤ちゃんがいてトレーラーハウスは大変でしょう」とのことで南陽市役所に問い合わせしてくださり、避難所として桜湯に滞在できることとなりました。女将さんのお父さんが浪江町出身であったこと、孫の名前が「桜子」という縁があったのかもしれない。深く感謝しています。

震災では、義理の母と兄が津波の犠牲となりました。兄の確認はまだ取れませんが、母はDNA鑑定で本人確認ができ、葬式をすることができました。母が見つかったことを区切りとして、前に進む決心をし、それまで経営してきた会社を福島県二本松に仮社屋を置き、

再建に向けて取り掛かっている状況です。

地震直後から近所の人や消防などみんなで不明者の搜索活動をしていましたが、12日に避難指示が出され、仕方なく搜索活動を止め避難してきました。もう少し搜索していたら、もしかしたら助かった命があったかもしれないということが心残りでなりません。原子力被害がなければ搜索もできたし、避難する必要もなかった。これが原子力被害の恐ろしさであり、ひどいところです。二度とあってはならない事故だと思います。

今思えば阪神大震災は、もしかしたら「他人事」だったのかもしれないという思いがあります。今回の震災を経験して、人と人との助け合いの心の必要性を強く感じました。じっとしてはならない、動かなければダメ。一日も早く復興して、恩返しをしたいと思っています。

私にとって浪江町はかけがえのない故郷です。海、山があり、海産物もおいしいし、山菜もおいしいところです。B-1 グルメでも有名になったなみえ焼きそばもおいしいのです。一刻も早く、元の浪江町の姿に戻しましょう。



らかにになり、すぐにでも救助に入れば助かったかも知れない津波被害の方々を救えなかったことで、消防団員でもあった自分としては、何とも言えない無力感を感じています。

せめて、相馬市の遺体安置所や居住していた地区にマイクロバスでも一時帰宅できる回数を増やして、お線香でもあげたいと強く願っています。

浪江は農業と漁業の町。今はちょうど作付けの時なので、家業で「こしひかり」や「ひとめぼれ」などを作付けしていたのを懐かしく思っています。懐かしいと言えば、2月第3週の「安波祭」や全国的にも珍しい1月2日の出初式もまた、是非参加してみたいものです。前年度の漁獲高で名誉をかけての出初式は強く思い出に残っています。もともと請戸は浜手なので、口は悪いが気は優しい地区。今はゼロからのスタートですが、いつかきつと同級生、消防団の仲間、子どもたちを通じて友人たち、そして隣組の人たちと会える機会を楽しみにしています。自分が旗振り役になっても1年に1回、2年に1回でも良いので、何とか実現したいものだと考えています。



ダイハツ工業株式会社 様

軽自動車1台を無償で貸し出していただきました。



スズキ株式会社 様

軽トラック1台を寄贈していただきました。



がっつり祭り主催者の皆さま

5月21日に郡山市にある<HIPSHOT JAPAN>と<club #9>の2会場で、県内のアーティストたちが80名以上参加した福島復興イベント【がっつり祭り/福島スペシャル】が開催されました。

イベント当日に集まった物資などが、浪江町に贈られました。



ふるさと浪江会 様

ふるさと浪江会（会長 原田直之さん）の会員の皆さまから義援金が届けられました。

広報なみえ 2011.7.1



浪江町を応援してくれているたくさんの方々から義援金や支援物資などが届けられています。

今月号ではその中の一部をご紹介します。

皆さまのあたたかいご支援ありがとうございます。



ハッピーロードネット 様

特定非営利活動法人ハッピーロードネット様から全国から集められた文房具やおもちゃなどが届けられました。



柏オークライオンズクラブ 様

柏オークライオンズクラブの会員の皆さまから義援金が届けられました。

越谷北ロータリークラブ 様

越谷北ロータリークラブの皆さまから義援金が届けられました。

ラブ フォー フクシマ Love for Fukushima 様

5月13日、Love for Fukushima 浪江町復興支援チャリティライブが元BLANKEY JET CITYの照井利幸さんをメインゲストに、青森県十和田市で開催されました。ライブの収益は、すべて浪江町復興支援の義援金として浪江町に届けられました。

情

報

ぴっくあっぷ

問合せ
申込み
電話
ファックス
メールアドレス
ホームページアドレス
フリーダイヤル

国民健康保険 からのお知らせ

■保険証の更新

3月11日時点で浪江町国民健康保険に加入されている被保険者の方に、被保険者証（保険証）の一斉更新をしました。世帯主の方の避難先の住所に発送をしています。まだ、お手元に届いていない方は、ご連絡ください。

なお、後期高齢者医療保険の方は、8月1日が更新日ですので、今回は発送されていません。

▽浪江町コールセンター

TEL 03—5638—5055

■国民健康保険への加入

浪江町国民健康保険への加入を希望される方は、郵送または役場窓口で申請してください。

加入手続きには、以前お勤めだった会社、または年金事務所から発行される「社会保険等資格喪失証明書（原本）」（資格喪失年月日が記載されたもの）か「離職票の写し」（離職年月日が記載されたもの）が必要です。

▽郵送方法

浪江町コールセンター（TEL 03—5638—5055）に連絡し、「資格異動届」を請求してください。必要事項を記入し、「社会保険等資格喪失証明書（原本）」か「離職票の写し」を添付して郵送してください。

書類到着後、内容を審査し、保険証を避難先の住所に郵送します。

■7月1日から医療機関を受診するときは

7月1日から医療機関を受診するときは、保険証の提示が必要となります。保険証をお持ちでない方は、ご加入の医療保険者にお問い合わせください。

■医療費一部負担金の免除証明書

医療費の一部負担金等医療機関窓口負担の免除は、7月1日以降保険証のほかに「免除証明書」が必要とされていますが、浪江町国民健康保険・後期高齢者医療保険にご加入の方は、証明書の交付が不要です。保険証の提示のみで一部負担金等医療機関窓口負担の支払いが免除されます。

国民健康保険・後期高齢者医療保険に加入の方は、証明書の交付が不要です。保険証の提示のみで一部負担金等医療機関窓口負担の支払いが免除されます。

担の支払いが免除されます。

国民健康保険・後期高齢者医療保険以外に加入の方は、免除証明書が必要となりますので、ご加入の医療保険者にお問い合わせください。

問 健康福祉班（国保年金係）
TEL 0243—62—0123

後期高齢者医療 保険被保険者証の 発行・再交付

後期高齢者医療保険の被保険者証の再交付には、申請が必要です。

※有効期限が7月31日までの被保険者証をお持ちの方は、再交付の必要はありません。

※被保険者証の一斉更新は、毎年8月1日です。一斉更新には、再交付の手続きは必要ありません。

【窓口での申請】

①本人が申請する場合
免許証等の身分証明書をお持ちください。

お持ちでない場合は、本人確認のため簡単な質問をします。

②同一世帯の世帯主の方が申請する場合

本人が窓口に来られない場合は、同一世帯の世帯主の方が代理で申請することができます。

世帯主の方は、免許証等の身分証明書をお持ちください。

③①②以外の方が窓口で申請する場合

世帯主の方以外の同一世帯の方が申請する場合は、委任状が必要です。

また、別世帯の方が申請をする場合は、委任状と関係を示す書類が必要になります。

【郵送での申請】

①本人が申請する場合
申請書を記入して、免許証等の身分証明書の写しを添付して、浪江町役場二本松事務所へ送付してください。

身分証明書をお持ちでない方は、電話で確認します。

申請書は、浪江町コールセンター（TEL 03—5638—5055）で請求できます。

②同一世帯の世帯主の方が申請する場合

世帯主の方の免許証等のコピーを添付して代理で申請できます。

③①②以外の方が申請する場合
委任状が必要になります。また、別世帯の方が申請する場合、委任状と関係を示す書類が必要になります。

【県内の市町村窓口での申請】

福島県内の市町村の市役所や役場で手続きをすることもできます。

ます。お近くの役場・役所ならどこでもできます。（双葉郡内の臨時役場は不可）

問 浪江町コールセンター
TEL 03—5638—5055

国保・後期高齢者医療の郵送先
〒964—0904
福島県二本松市郭内一丁目196—1
福島県男女共生センター1階

浪江町役場二本松事務所
健康保険課国保年金係 宛
TEL 浪江町コールセンター
03—5638—5055

福島県子ども救急電話相談

▷短縮ダイヤル

8000 (024—521—3790)

▷相談時間

毎日 午後7時～翌朝8時

※他県にお住まいの方は、お近くの保健センターなどでお問い合わせください。

国民年金保険料の免除

福島第一原子力発電所の事故に伴い、平成23年3月11日時点で浪江町に住所を有していた方は、ご本人からの申請に基づき、国民年金保険料が全額免除になります。

ただし、免除期間に対する年金の給付は、満額給付に対して2分の1となります。

▽免除期間

平成23年2月～6月
▽申請期限 7月末日

平成23年7月分以降は、7月以降に申請していただく予定です。詳しくは、お問い合わせください。

問 日本年金機構平年金事務所
国民年金課
Tel 0246-23-5611

乳幼児・児童医療費助成

乳幼児・児童医療費の一部負担金（保険適用分の自己負担金を全額助成する制度です。）

▽対象者

浪江町に住所がある浪江町国民健康保険以外に加入の0歳から15歳までの子ども

0歳～6歳……乳幼児医療費
7歳～15歳……児童医療費

▽申請方法

助成申請書に必要事項を記入し、医療機関の領収書を添付して郵送、または窓口で申請してください。

（申請書に医療機関の証明があれば、領収書の添付は必要ありません。）

▽郵送先

〒964-0904

福島県二本松市郭内一丁目196-1

福島県男女共生センター1階
浪江町役場二本松事務所

※申請の際は次の点にご注意ください。

- 電話番号は、日中連絡の取れる携帯電話等の番号を記入してください。

- 受給者証がない場合は、受給者番号を省略できます。

- 口座名義に必ずフリガナを記入してください。

問 福祉班
Tel 0243-62-0123

各種母子保健事業・予防接種事業

乳幼児健診や予防接種を受けるときには、避難先の市区町村に申し出ることで避難先保健センターや医療機関で受けることができます。

■避難先の市区町村でできるもの
●母子健康手帳等の交付

- 定期の予防接種（ポリオ・BCG・三種混合・二種混合・日本脳炎・麻疹風疹）

- 任意（定期外）の予防接種助成（子宮頸がん予防ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌予防ワクチン）

- 乳幼児健康診査等（3カ月健診・1歳8カ月健診・3歳6カ月健診）

- 妊婦健康診査

※当日の場所や詳しい内容は、避難先の市区町村にご相談ください。

問 健康福祉班（健康係）
Tel 0243-62-0123

保育料の減免

保育料は全額減免になります。

▽対象者

町立保育所または広域入所により町外の保育園に通園している方

※広域入所とは

保育に欠ける児童を浪江町に住所がある方が浪江町以外の市町村にある保育園に入園させること。

- 県外に避難された方も対象
- 認可外保育施設は、対象外

▽適用期間

平成23年3月1日～平成24年3月31日

●平成22年度に町立保育所に通園していた方は、3月分保育

料も減免になります。

問 福祉班
Tel 0243-62-0123

「被災証明書」「り災証明書」

▽申請方法

窓口交付のほか、電話、FAX、郵送で申請できます。

FAX、郵送の場合は、次の内容を明記してください。

①必要な方の氏名（漢字およびフリガナ）、生年月日

②浪江町の住所（平成23年3月11日現在）

③日中連絡のつく連絡先（携帯電話等）

④現在の居住地（避難先）

⑤FAXでの交付を希望される方は、FAX番号

申請の際は、記載の誤りがないか確認の上、申請してください。

住民基本台帳で本人が確認できた後、ご指定の方法で交付します。

※「り災証明書」に、損壊状態の表記はありません。

問 浪江町コールセンター
Tel 03-5638-5055

警戒区域への一時立入り

警戒区域への一時立入りが決定した方には、実施する一週間

程度前に、役場担当者から連絡をします。

また、実施当日立入りができなかでないかの確定情報は、当日早朝から役場の代表電話番号（Tel 0243-62-0123）で電子音声案内にてご案内します。

悪天候のため中止となった場合は、役場担当者から中止となった当日中に次回立入り日のご希望確認をするためにお電話します。

※自宅からの荷物の持ち出しと車の持ち出しは別々に実施しています。

問 一時立入り計画班
Tel 0243-62-0123

一時立入りに伴うペットの保護

一時立入りに伴い、環境省と福島県が協働でペットの保護・収容を行います。（犬と猫に限ります。）

一時立入りされた方の保護情報をもとに、環境省と県で保護し、20km圏外の安全な場所でお預かりします。飼い主の方が引き取ることができるときまで、飼育管理をします。

問 県保健福祉部食品生活衛生課
Tel 024-521-7242

借上げ住宅の特例措置

県内の民間の住宅に入居された方や今後自ら手続をして民間住宅に入居する方に、要件を満たす物件を県借上げ住宅とする住宅支援を行っています。

▽対象世帯

- ①住宅の全壊等により居住する住宅がない世帯、または、原発事故による避難指示等により長期の避難が必要な世帯
 - ②民間の賃貸住宅に入居、または入居を予定し、自らの資金では契約の継続が困難な世帯
- ▽対象住宅
次の5つの条件すべてを満たす住宅

○福島県内の民間賃貸住宅

(注)緊急時避難準備区域に指定されている地域については、自力で避難できる方で構成される世帯のみ対象となります。

○家賃が6万円以下。ただし、入居人数が5名(乳幼児を除く)以上の場合の月毎の費用の限度額は9万円

○昭和56年以降に建設した住宅、または耐震性が確認された住宅

○入居世帯の状況に適した床面積である

○貸主および仲介業者が、県の借上げ住宅になることを了承したもの

▽入居期間

原則1年。最長2年。

▽注意事項

県の借上げ住宅として認められた場合、その後新たな借上げ住宅への変更・移動はできません。ただし、①県外の※応急仮設住宅から県内の応急仮設住宅へ住み替えを行う場合、②県内の応急仮設住宅から県内の応急仮設住宅への住み替えのうち、就労、就学の利便性向上のために住み替えを行う場合

※応急仮設住宅とは、仮設住宅のほか、民間賃貸住宅、空き家、公営住宅等の借上げ住宅も含みます。

(注)特例措置の申し出期間は、「県が指定する日」までです。

この期間に入居できる物件が対象となります。「県が指定する日」は、まだ決まっておりませんので、決まり次第お知らせします。

浪江町コールセンター
TEL 03-5638-5055

仮設住宅募集案内

仮設住宅への入居者を随時募集しています。

すでに申し込みをされています

て、変更がない方は、提出の必要はありません。

▽対象世帯

平成23年3月11日時点で浪江町に住所を有し、自力で住宅を確保することが困難な世帯

▽建設地域

二本松市、福島市、桑折町、本宮市

▽申請方法

郵送・FAX・窓口でお申し込みください。

(郵送先)

〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目196-1

福島県男女共生センター内
浪江町役場二本松事務所 住宅支援班 宛

FAX 0243-224261

選定方法は、世帯の状況や優先入居条件などを勘案して行います。

▽注意事項

●各建設地域の希望はできませんが、場所の指定はできませんのでご了承ください。

●すでに申し込みされている方が、別の地域に申し込みを変更することもできます。

(例：福島市の仮設住宅から本宮市の仮設住宅へ変更など)

浪江町コールセンター
TEL 03-5638-5055

住民票・戸籍謄抄本・税証明

住民票・戸籍謄抄本・税証明などの発行を再開しています。

必要な方は、郵送または窓口で申請手続きをしてください。

■発行を再開したもの

●戸籍・住民票関係

住民票、戸籍謄本、戸籍抄本、除籍／改製原戸籍謄本、除籍／改製原戸籍抄本、身分証明書、附票、戸籍記載事項証明、届書の写し証明、受理証明、印鑑登録証明書 など

●税関係

納税証明書、所得証明書、課税・非課税証明書、資産証明書、名寄帳、評価額証明、公課証明、税額証明 など

▷取得方法

●窓口での申請・交付

本人を確認できるもの(運転免許証等顔写真付きの公的証明書、保険証など)をお持ちください。お持ちでないときは、本籍や家族の聞き取り、職員の面識確認を行います。

●郵便での申請・交付

①～③の書類を役場住民・税証明係宛てに送付してください。

①請求内容のわかる書面

便箋などに浪江町の住所または本籍、必要な方の名前、生年月日、必要なもの(戸籍謄本1通など)、送り先(避難先)の住所、連絡先の電話番号、使用の目的などを記載したもの

※連絡がとれない場合、発送できない恐れがありますので、連絡先の電話番号は必ず記載してください。

②返信用の封筒

送り先(避難先)の住所、方書き、宛名を記載した封筒

③本人確認の書類

運転免許証等顔写真付きの公的証明書、保険証、住基カード、外国人登録証などのコピーを同封してください。お持ちでない場合は、診察券のコピーなどお名前の書いてあるものを送付していただき、電話連絡の上確認します。

▷郵送先

〒964-0904

福島県二本松市郭内一丁目196-1

福島県男女共生センター内

浪江町役場二本松事務所 住民・税証明係 宛

浪江町コールセンター

TEL 03-5638-5055

高速道路の無料開放

6月20日(月)午前0時から東北地方(水戸エリアの常磐道含む)を発着する被災者および原子力事故による避難者、トラック、バス(中型車以上)について、高速道路が無料開放されました。出口料金所で被災を証明する書面(被災証明書・り災証明書等)および本人を確認できる書面(免許証等)の提示が必要となりますが、原発事故による避難者は、警戒区域、計画的避難区域、緊急時避難準備区域に住所を有することを証明する書面(運転免許証、パスポート、健康保険証など、公的機関が発行するもの)の提示でも可能です。

▽対象路線

東北を中心とする高速道路と地方道路公社の有料道路

問 NEXCO 東日本お客さまセンター
TEL 0570-024-024

熱中症予防

気温の上昇に伴って、熱中症への注意が必要です。

- ①寝不足に気をつけて体調を整えましょう。
- ②通気性・吸湿性の良い服装に

なるよう注意しましょう。

- ③こまめに水分補給をしましょう。「のどが渴いた」と感じたら、すでにかなりの水分不足です。起床時、就寝前、入浴前後、外出時前などに、コップ一杯程度の水分を補給しましょう。日中は、コップ半分程度の水分を定期的(1時間に1回)に補給するといひでしょう。
- ④気温に配慮しよう。

気温が25℃を超えれば、室内外での熱中症への警戒が必要となります。

※子どもや高齢者は、特に注意が必要です。周囲の方が声をかけましょう。

問 健康福祉班(健康係)
TEL 0243-62-0123

こころのケア

今回の震災では、長期避難が予想されるため、自分でも気づかない間に疲労やストレスが蓄積したり、無力感や倦怠感を繰り返し感じることもあります。

- ①食事や睡眠など日常生活のリズムをなるべく崩さないようにしましょう。
- ②気分転換を図るようにしましょう。
- ③信頼できる人や家族に話を聞いてもらいましょう。

聞いてもらうことが、心を軽くすることに役立ちます。(ためこまないようにしましょう。)

長期に症状が残っている場合は、相談機関に相談しましょう。また、家族・周囲の人にも気配りをし、声をかけあつて乗り越えていきましょう。

▽相談窓口

こころの健康相談ダイヤル(福島県精神保健福祉センター)
問 0570-064-556
(9時~17時 土日祝日を除く)

双葉畜産農業協同組合からのお願い

双葉畜産農業協同組合の組合員の方は、避難先住所と連絡先をご連絡ください。

■双葉畜産農業協同組合

(福島県畜産農業協同組合連合会内)
〒960-8044
福島県福島市早稲町8-3
(和牛会館内)

TEL 024-522-4108
FAX 024-522-4109

農業者の皆さまへ

農業関係でお悩み、困りごとがある場合には、農畜産業者連絡先にご相談ください。

【浪江町農畜産業者連絡先】

○米穀関係

業者名	連絡先
㈱上田善治郎商店	090-2956-8063
(有) 館内商店	090-8927-1869
(有) 佐藤秀親商店	090-3126-5256
(資) 神谷巖商店	080-1678-0939
■受付時間■ 9:00~17:00 ※土・日・祝日は除く。	

○畜産関係

業者名	連絡先
双葉畜産農業協同組合	024-522-4108
■受付時間■ 9:00~17:00 ※土・日・祝日は除く。	
業者名	連絡先
ふたば農業協同組合	024-554-3095

○農業全般

介護保険被保険者の皆さまへ

■要介護認定(要支援認定を含む)

●新規の要介護認定申請前にサービスを受けた方も、特例居宅介護サービス費等を受け

ることが出来ます。

●要介護認定および要介護認定の更新等をする方が、被保険者証の提示ができない場合でも申請することが出来ます。

●すでに要介護認定審査をしていゐる方で、認定審査会を開催できない等の事情で通常の要介護認定ができない場合も、暫定ケアプランを用いたサービスが受けられます。

●要介護認定の更新申請ができる方が、要介護認定の有効期間の満了前に申請できない場合も、要介護認定の更新申請があつたものとして引き続きサービスを受けられます。

問 健康福祉班(介護保険係)
TEL 0243-62-0123

「広報なみえ」は、浪江町の全世帯に配布します

世帯主の方の避難先住所に郵送しますので、世帯主の方と離れて避難し、郵送を希望する方は、ご連絡ください。

浪江町コールセンター

TEL 03-5638-5055
FAX 0243-22-4261
(24時間受付)

**警戒区域への一時
立入り実施予定日**

【自宅からの荷物の持ち出し等】

7月1日(金) 7月2日(土)

7月9日(土) 7月10日(日)

7月16日(土) 7月17日(日)

7月24日(日) 7月25日(月)

▽参加人員 各日480名程度

▽集合時間

9時30分と11時(1日2回)

▽集合場所 馬事公苑

【車の持ち出し】

7月3日(日) 7月11日(月)

7月19日(火) 7月27日(水)

▽参加人員 各日120名程度

▽集合時間 10時30分

▽集合場所 馬事公苑

▽集合場所 馬事公苑

▽集合場所 馬事公苑

**避難先をご連絡
ください**

避難先の連絡をお済でない方
や連絡後避難先が変わられた方
は、役場までご連絡ください。

問 浪江町コールセンター
03-5638-5055

各種相談窓口のお知らせ

内 容	連絡先 (TEL)	設 置 場 所
■災害（支援）に関する相談		
・放射線に関する問い合わせ先	024-521-8127	8:00~21:00(毎日)
・被災者を対象とした無料法律相談窓口	0120-366-556 024-534-1211 024-925-6511 0242-27-2522 0246-25-0455	日弁連 (平日10:00~15:00) 県弁護士会 (平日14:00~16:00)
・原子力損害の賠償に関する問い合わせ (県窓口)	024-523-1501	8:30~21:00(月~日) ※毎週水曜日(祝日含む)の13:00~17:00 は弁護士による法律相談
・避難者の生活支援 (東京電力関係)	024-521-0792	東京電力福島地域支援室
	0120-926-404	福島原子力補償相談室(コールセンター)
・県外避難者支援担当	024-523-4157	
■生活に関する相談 【受付時間：8:30~17:15(土日除く)】		
・生活福祉資金に関する相談	024-523-1250	福島県社会福祉協議会
・県税に関する相談 (自動車税、納税証明書など)	024-521-7070 024-521-7069	税務課 (福島県)
・被災者の住宅に関する相談 (県内)	024-521-7698 024-521-7867	被災者住宅相談窓口専門ダイヤル (8:30~20:00)
・ ” (県外)	024-523-4157	福島県災害対策本部
・行方不明者・警察安全相談	024-522-2151	福島県警察本部 (8:30~17:15)
■経営・労働に関する相談 【受付時間：8:30~17:15(土日除く)】		
・特定地域中小企業特別資金に関する相談	024-525-4019 024-534-0928 024-535-7348 024-534-0948 024-534-0938	福島県産業振興センター
・就職に関する相談 (就職相談・職業紹介)	024-525-0047 03-3545-6140	ふるさと福島就職情報センター [ジョブカフェふくしま] (月~土:10:00~19:00) [Fターンセンター東京] (月~土:10:00~18:00)
(生活・就労相談) (就職相談・職業紹介・生活相談)	024-995-5057 024-525-2510	ふくしま求職者総合支援センター [郡山支店](月~金:8:30~17:00) [福島窓口](月火木金土:10:00~18:30)
(看護職の就業に関する相談)	0248-27-0041 0242-27-8258 0246-25-7131 024-934-0500	ふくしま就職応援センター [白河窓口] [会津若松窓口] [いわき窓口] 福島県ナースセンター ※福島県看護協会内 (平日8:30~16:30)



連絡先一覧

■浪江町役場二本松事務所

〒964-0904

福島県二本松市郭内一丁目196-1

男女共生センター内

TEL 0243-62-0123 FAX 0243-22-4261

■浪江町コールセンター

TEL 03-5638-5055

■猪苗代連絡所

〒969-3123

福島県耶麻郡猪苗代町字城南100

猪苗代農村環境センター内3階

TEL 0242-72-0311

■裏磐梯エリア臨時窓口

〒969-2701

福島県耶麻郡北塩原村大字桧原字剣ヶ

峯1093 北塩原村裏磐梯合同庁舎受付

カウンター内スペース

※毎週 火曜日・金曜日 開庁

TEL 090-6064-2671・090-1710-8618

■土湯連絡所

〒960-2157

福島県福島市土湯温泉町字赤坂7番地6

サンスカイつちゆーこけし湯内

TEL 024-594-5351

■岳連絡所

〒964-0074

福島県二本松市岳温泉1番地7

東三番館内

TEL 0243-61-1280

■浪江町教育委員会

TEL 080-2807-6933・080-2807-6951

FAX 0243-22-4261

■浪江町社会福祉協議会

TEL 090-6639-7704・090-2852-9486

■浪江町商工会

あだたら商工会内

TEL 0243-22-9100

